



今月の坂
鑑坂

特集

ガレージの中から

トピックス

文京しまぎさんぽ「春日通り(歴史の街道)を歩く③」

今月のイベント情報 第31回文京朝顔・ほおずき市

文京温故知新「文京区」の誕生

坂のまち文京をめぐる

坂道通信

文京しまぎさんぽ
春日通り(歴史の街道)を歩く②

文・島崎庄平
写真・甲藤正郎



伝通院の表門

文京区はドイツのカイザーラウテルン市と昭和63年に姉妹都市提携を結んでいます。人口は文京区の約半分。面積は文京区の約12倍。茗荷谷駅近く春日通り沿いの窪町東公園カイザーラウテルン広場にはドイツの彫刻家ルンブ夫妻の作品、一角獣(ユニコーン)やアンモナイトなどの彫像があり、憩いの場所となっています。

再び伝通院前交差点へ。ここを北に折れると「伝通院」。正式名は無量山傳通院寿経(じゆききょう)寺。徳川將軍家の菩提寺です。関東にある浄土宗の十八の学問所(檀林)の一つで、増上寺の次席の檀林です。軽快に玉砂利を歩くと、古木の桜の奥に鐘楼、その隣に三体の仏像、橋本徳壽(大正の歌

人)の辛夷(コブシ)の歌の歌碑も見えます。江戸の三度の大火や大戦をくぐり抜けてきた560年の古刹には、計り知れぬ歴史の重さがあります。7月には地域の朝顔・ほおずき市も開催、私も会館で開かれていた「歌おう会」で3曲ほど合唱しました。境内には徳川家ゆかりの女性の墓が多く、中でも家康の生母、於大の方(おだいかた)の墓はひとときわ立派です。於大の方は慶長7年(1602)京都見物中に75歳で亡くなり、家康は遺体を江戸に運ばせ火葬にし現在の墓地に葬りました。当時この辺りは草原で、堂宇の建立はそれから7年後でした。

○今月の一句 「坂道を 登り つめれば 空高し」

今月のイベント情報
牛天神納涼大会

8月25日(土) 8時~19時
今年も文京朝顔・ほおずき市が開催されます。全部で6会場あるのですが、毎年、伝通院(傳通院)からスタートして、澤蔵司稲荷、善光寺、礪川地域活動センター、源覚寺(こんにやくえんま)、最後に牛天神北野神社までぐるっと一周散策すると、かなりたくさんさんの催事やイベント、美味しい食べ物があります。個人的なおススメは、ラム肉バーベキューと南三陸産の生わかめ・生昆布です。昨年はあいにくの雨でしたが、今年は晴れるでしょうか？

文京温故知新
「文京区」の誕生

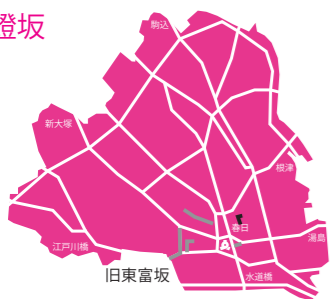
文京区は戦時中の昭和22年(1947)3月15日に誕生しました。太平洋戦争によりそれまでの35区の人口にアンバランスが生まれました。統一人口10万から20万人②生活圏が密接に関係する区域を一つに…という基準。そんな中で小石川区と本郷区との統合が自然だとの結論に至りました。なお東京新聞が公募した区名案には山手・城北・京北・弥生・八千代・曙・音羽・春日なども。(S・S)

シビックセンター展望台からの眺め

…暑いとついついビールを飲み過ぎてしまうのですが。(M・K)

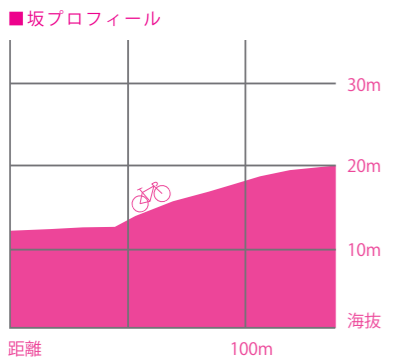


05 鑑坂



■坂データ

全長	120m	特徴	コーナー坂
高低差	8.0m	勾配	レの字型
平均勾配	6.7%	登坂タイム	15秒
最大勾配	17.4%	平均時速	28.8km/h



05 鑑坂



東富坂を上がった先の細道を、白山側にしばらく進むと、車一台やっと通れるかという狭い下り坂に出会います。名を鑑坂と言ひ、名の由来にはいくつか説があり、馬に乗るときに足をかける馬具である、鑑の製作者の子孫が住んでいた説とその形が鑑に似ている説。後者の方が有力なようで、それを元に地図を見てみると、急坂を折りきって右折した先までが鑑坂だっただようですが、残念ながら現在はほぼ平ら。

現在鑑坂として認識されている坂は、左に大谷石の塀、右に目地が苔生した石垣を見ながら細路地を登る趣きのある激坂であり、「文の京都市景観賞」にも選ばれていて、文京区有数の名坂と言っているでしょう。右側の石垣の上は上州高崎藩藩主である大河内家松平右京亮の中屋敷があったところで、現在は

文・写真 富永大毅



■編集後記
不安定、不確実、複雑、曖昧な世界では、問題志向から解決志向への転換、つまり、まず行動、行動したら小さな変化が必ず起こるので、それをチャンスと捉えて拡張させていく作業が重要となります。今回、特集を執筆してもらった秋本さんは、この解決志向で10年後の超高齢社会と向き合う挑戦者です。ぜひ注目しててください。ちょっと応援演説してみました。(M・K)

■発行者情報
坂道通信 第4号 2016年7月24日発行
発行：坂道通信編集委員会
〒112-0003 東京都文京区春日 2-26-11
株式会社 COCOA 内
TEL:03-5803-9477 FAX:03-5803-9478

■Andozaka COIN (安藤坂コイン)
Andozaka COINは文京区春日二丁目の老朽化建物を再生活用することで生まれたコワーキングスペースです。近隣の居住者の方を中心に、多様な利用者が多様な使い方をしながら魅力的なコミュニティが生まれています。ご興味のある方は、まずはWEBサイトから内覧説明会にお申し込み下さい。
www.andozaka-coin.com





Andozaka COIN 1Fの工房。ビニールカーテンをめくるとこんな感じで作業しています

植物園で釣りは駄目

初めまして、こんにちは。シルバークセサリーや革小物制作・販売しています、AJINA（味な）の川上と申します。

5月号の特集を執筆された井澤さん同様、私も文京区生まれ・育ちの3代目です。小学生一年生までは白山に住んでおり、昨年、開校100周年を迎えた指ヶ谷（さすがや）小学校に通っていました。白山から小石川に引越した後も指ヶ谷小に通い、中学校は春日通り沿いの茗台（めいだい）中学校です。小さい頃は、小石川植物園にザリガニ釣りに行ったり、近所の草むらで蛙を捕まえたり、市ヶ谷の外堀で魚釣りをして、文京区にもかかわらず外遊びを一杯して育ちました。当時の植物園には、ザリガニ以外にもタナゴやフナ、コイ、クチボソ等、色々な魚がいて、見回りの目を盗んでは、友達と一緒に追いかけていました。中学生になると園内でBB弾のエアガンで遊んでいたのが、かなり迷惑な子供だったように思います。今は無くなってしまいました。が、茗台中学校前から植物園前に至る吹上坂沿いのソフトクリム屋さんには大変お世話になりました。また、三橋医院のあ

る角地には、以前はカレーが超美味しい喫茶店があり、テイクアウトでよくルーを買ったものです。他にもケーキ屋さんや駄菓子屋さんなど、このエリアには小さなお店が沢山あり、自分にとって、そういった小さなお店が魅力的で、いつか自分も地元でそういったお店を持ちたいという今の思いに繋がっています。

モノづくりの世界へ

幼少期から手を動かして何かを作ったり、分解して壊したりするのが好きで、木工、プラモデル、ラジコンと、徐々にスケールが大きくなって、高校生の頃はバイクの免許を取って、バイクいじりもしていました。生活の中に常に何か手を動かすことがあった影響か、高校卒業後には整備士の専門学校でみっちり勉強して、ホンダのディーラー（特約店）で自動車整備士として働き始めたのが社会人としてのスタートです。しかし、部品交換の流れ作業、体力勝負の仕事で、想像していた仕事とは異なり、たった一年で辞めてしまいました。

その後、ワーキングホリデーのビザを使って、オーストラリアのプリズベンに行き、一年間、語学学校に通いました。この場合、革の裏側の床面（とこめん）を使ってサンプルを作ったイメージを確認、了承を得てから、革の表側の銀面（ぎんめん）を使って実際のアイテムを制作しています。ブツテロの革はカラーが豊富で、糸（リネン）やパーツの組み合わせだけでなく、何千パターンも制作可能です。カードの枚数指定やがま口を付けたり、オリジナルのアイテムも作れるので、お客様は「どこで手に入れたの?」と周りから驚かれることが多いので、ちょっと嬉しいです。

シルバークセサリーについて

最初に作り始めたのは、マネークリップです。もともとチップ用の紙幣を挟んでおく留め具として生まれたアイテム。チップ文化がない日本ではあまり馴染みのないアイテムですが、お財布をズボンのポケットに入れておくことは見た目も安全上も悪く、スーツ着用時や、パーティーや高級レストランで女性をエスコートする際など、フォーマルな場面で使われる海外では一般的なお財布の一種です。制作は、ベースとなる板を叩いて模様をつけたり、彫ったり削ったりして装飾をする工程から、曲げ、クリップとしての強度を確保するための叩き込み、磨きという順番に進みます。すべての工程が手作業で一品生産で制作しているため、表情が一つ一つ違います。

マネークリップの制作・販売が軌道に乗ってからは、ピアスやネックレス、指輪、カフリンクスなども制作するようになりました。これらのアイテムは、溶かした材料を型に流し込んでつくる鑄造（ちゅうぞう）という加工方法により作られます。固まったものを磨くだけで完成するデザインにしておけば、



人気の高いフルーツパズルの入ったマネークリップ

型を元に大量生産もできるのですが、私は手作業や一品生産に拘りがあるので、金属を彫る鑿（たがね）から自分で作り、鑄造だけではできないデザイン、アイテム作りを心掛けています。シルバークセサリーといた素材の選択からデザイン、サイズ（0.5号刻み）、誕生石や刻印の有無など、フルオーダーやセミオーダーにも対応し、世界にたった一つしかないモノを創り出すことに注力しています。

革小物について

工房「あるじやん」で修行している時から革小物も作るようになりました。最初は小銭入れといった小さいものから、今ではお財布、パスケース、iPhone ケース、キーホルダー、

ベルト、カバン、アンクルバンド（自転車用の裾留めバンド）などを作っています。材料の革は、張りや表情、経年変化による味わいを重視して、イタリアのトスカーナ地方にある老舗タンナー・ワルビエ社の「ブツテロ」を使用しています。動物の「皮」は「なめし」という加工で「革」になるので、革に染料を塗るクロームなめしではなく（経年変化で塗膜が剥がれてしまいます）、塗料を染み込ませるタンニンなめしによって、たっふりと染料が入った重量感のある革となっています。牛の肩の部分の皮を使っているのが、よく見ると牛の首のシワや血管の跡が残っているように見えます。

革小物は、たくさんパーツによって構成されています（お財布の場合は約20パーツあります）。パーツの型紙を起こし、型紙を使って革を切り、接着でパーツを張り合わせ、手縫いで縫います。ミシン縫いで手間を省くと、ほつれると糸が出てきてしまうという弱点があるため、手縫いすることで耐久性を確保します。革の切断面も大切な箇所です。染料を入れ、ふのりを使って丁寧に磨くことで、美しい艶と強度を確保します。フルオーダーやセミオーダー

定期イベント『PRESENT』の様子。毎回80〜90名規模で開催。Photo by Hiroki Kondo



パスケース

ガレージの中から

独立当初は、自宅を工房にしています。しかし、幼い子供がいる中、金属を溶かしたり、危ない作業もあり、来客対応や活動認知に制約も多く、そんな時に Andozaka COIN を知り、

は言っても、簡単な会話が出来るようになった程度で、海外での経験がその後の仕事に役立った訳ではないのですが、そこで出会った人とは今も繋がっていて、色々な機会に色々な人と繋がっていくことの大切さを学びました。帰国後、契約社員として人材派遣の会社に努める傍ら、独学で彫金（シルバークセサリーの制作）を始めたのが、今に至るシルバークセサリー&革小物制作の活動スタートです。最初は趣味で始めた彫金ですが、この業界では有名な目黒区祐天寺の「工房あるじやん」がスタッフを募集していることを知り、この世界で食べていこうと腹を決め、見習いから始め、必死に学び、8年間の修行を経て独立しました。



道具を大切にすることを心がけています

一階のガレージに工房を移して、約3年が経ちました。

この間、かつての自分と同じく、この世界に興味がある方を対象に「仕事旅行」という外部サービスを紹介して職業体験も提供し、継続的に学びたい方を対象に革教室も開催するようになりました。

制作から販売、修理、メンテナンスをどのようにすべてのプロセスをお客様と一対一で対応することは、決して効率的なモノづくりとは言えませんが、使い手の個性を引き立たせるような「味な」モノづくりにトコトンこだわって、この道を探求していければと思っています。シャッターが開いている時にはビニールのカーテンの奥で制作していますので、展示販売品もおいでいただけますので、気軽に覗いていただけると嬉しいです。



仕事旅行の様子。AJINA で検索ください。